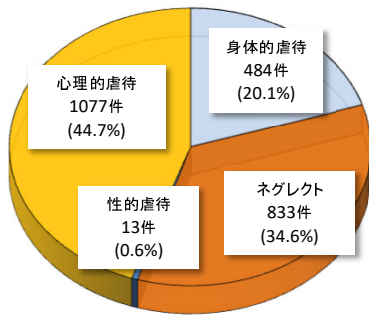


平成29年度 児童虐待相談の状況について（市町村受付）

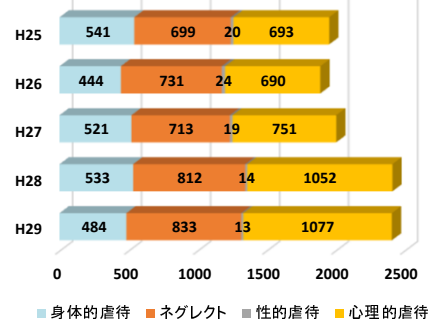
資料3-3

虐待の種類

H29種類別件数内訳



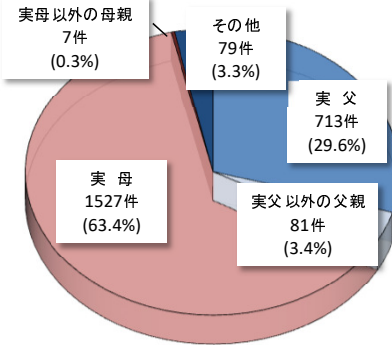
種類別件数の推移



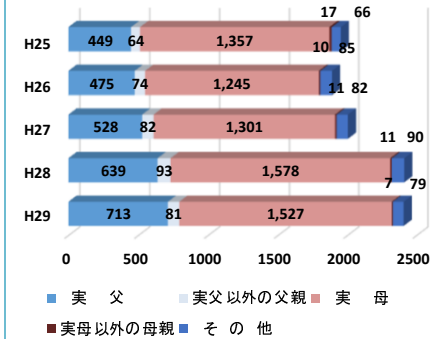
「心理的虐待」が最も多く、次いで「ネグレクト」「身体的虐待」の順に多い。前年と比べると「身体的虐待」が49件減(9.2%減)した一方で、「心理的虐待」「ネグレクト」の割合が高い傾向が引き続きみられる。

主な虐待者

H29主な虐待者の件数内訳



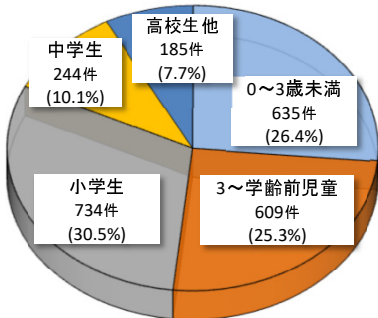
主な虐待者の推移



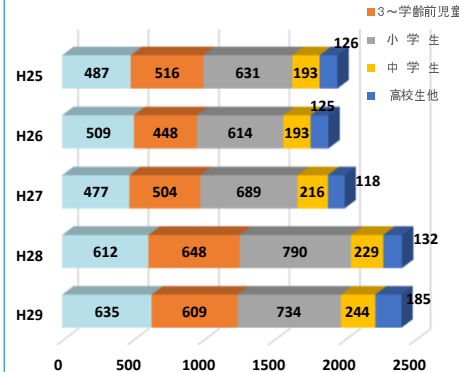
「実母」の割合が最も多く(63.4%)、「実父」と合わせた「実親」の割合が、全体の9割を超えている。前年度と比べると「実父」が74件増(11.6%増)となっており、「実父」の割合が年々増加している傾向にある。

被虐待児の年齢

H29年齢別件数内訳



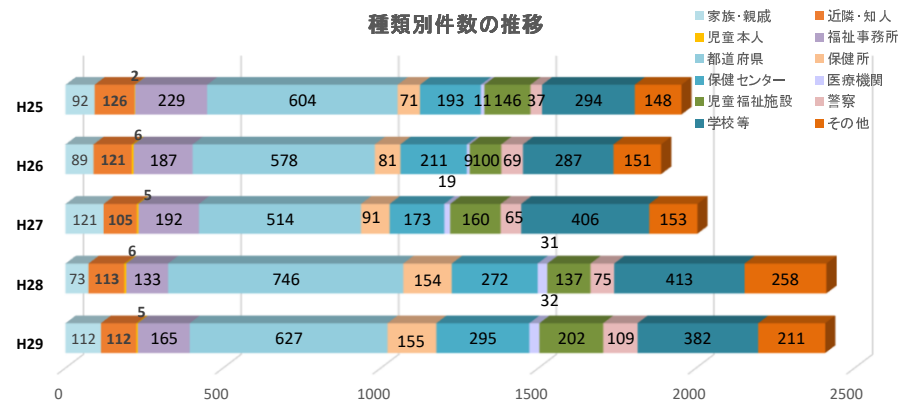
年齢別件数の推移



「0歳～就学前」の児童が、全体の約半数(51.7%)を占めている。前年度と比べると「小学生」が56件減(7.1%減)となっているが、「高校生他」が53件増(40.2%増)と、増加率が大きい。

虐待通告の経路

種類別件数の推移



「都道府県」からの通告が最も多く、次いで「学校等」「保健センター」の順である。前年度と比べると経路「家族・親戚」と「児童福祉施設」が、それぞれ39件増(53.4%増)、65件増(47.4%増)と特に増加率が目立っている。